2026年11月17日
ロッテバイオロジクス

ロッテバイオロジクス、グローバル製薬企業と バイオ医薬品の商業生産受託契約を締結 ～松島バイオキャンパス第１プラントでの初の生産～

- **松島（ソンド）バイオキャンパス第1プラントの稼働前に立ち上げ期の商業生産枠の受注を確定し、事業遂行能力を証明**
- **プラント完成と同時に商業生産へ移行できる体制を確立し、2027年より本格的な商業生産を開始予定**
- **シラキュースと松島をつなぐ「デュアルサイト」戦略を加速させ、2030年までにグローバル・トップティアのCDMOを目指す**

ロッテバイオロジクス（本社：韓国仁川（インチョン）市、共同CEO：ジェームズ・パク、重光聡）は17日、グローバル製薬企業とバイオ医薬品の製造受託契約（CMO）を締結いたしました。
本契約は、仁川の松島バイオキャンパス第1プラントにおける、初の大規模な商業生産受注となります。プラントの完成に先立ち、グローバル製薬企業を商業生産パートナーとして迎えたことは、同社のプロセス技術と事業の安定性に対する市場の信頼を示すものであり、意義深い成果です。
本契約に基づき、ロッテバイオロジクスは顧客の主力製品について、原薬から製剤に至る製造プロセス全体をカバーする「ワンストップサービス」を提供します。

■ プラント建設と並行して顧客を獲得：「先行受注」戦略の結実

ロッテバイオロジクスは本契約を通じて、第1プラント完成後の立ち上げ期において重要な商業生産枠を事前に確定させました。プラント完成後に本格的な営業活動を開始するという業界の通例とは異なり、設計・建設の初期段階から主要顧客とパートナーシップを締結したことで、稼働開始時から安定した収益基盤を確立します。
工場建設というハードウェアの構築と、商業生産枠の受注という事業成果を連動させたことは、松島バイオキャンパスの商業的成功に向けた確かな足がかりとなります。今回の受注は、同社がグローバルCDMO市場において、確固たる地位を築くための重要な出発点と捉えています。

■ 12万リットル規模の松島第1プラント：グローバルサプライチェーンの主要拠点

松島バイオキャンパス第1プラントは、1万5,000リットルのステンレス製バイオリアクター8基を備え、総生産能力12万リットルを誇る最先端のバイオ医薬品製造施設です。2027年からの本格的な商業生産開始を目標としています。
ロッテバイオロジクスは、米国のシラキュース・バイオキャンパスでの商業生産の経験と、松島バイオキャンパスの大規模生産能力を連携させる「デュアルサイト」戦略を通じて、グローバルな

サプライチェーンの多様化を推進しています。シラキュース・バイオキャンパスで蓄積した世界62件以上の規制当局からの承認実績と安定した生産能力を背景に、顧客の需要に柔軟に対応しています。
直近では、シラキュース・バイオキャンパスが米国食品医薬品局（FDA）の査察において「指摘事項なし」（Zero Observation）を記録し、その品質管理能力を改めて証明しました。同拠点で培った規制対応の経験と品質管理のノウハウを松島バイオキャンパスにも適用し、グローバル顧客の要件を満たす、一貫した世界基準の品質管理システムを構築しています。

■ 外部環境の不確実性が高まる中での持続的成長：「K-Bio」の競争力強化
世界的な景気減速や「BIOSECURE法」など、外部環境の不確実性が高まる中、ロッテバイオロジクスは今回の大規模契約により、持続的な成長の可能性と事業競争力を改めて証明しました。グローバル製薬企業との協業が大規模な商業生産契約につながったことは、両社の事業シナジーの創出だけでなく、グローバル競争力の強化においても重要な意義を持ちます。

【ジェームス・パク（ロッテバイオロジクス　共同CEO）コメント】
今回の契約は、ロッテバイオロジクスがCDMO分野における単なる新規参入企業ではなく、グローバルな顧客のサプライチェーンを支える中核パートナーとしての地位を確立しつつあることを示しています。これまで培ってきた品質競争力と安定した供給能力を基盤に、顧客の新薬商業化の成功を積極的に支援してまいります。

■ ロッテバイオロジクスについて
ロッテバイオロジクスは、バイオ医薬品の開発および製造を専門とするグローバルなCDMO専業企業です。米国ニューヨーク州シラキュース・バイオキャンパスと韓国の松島（ソンド）バイオキャンパスという米韓でのデュアルサイト戦略を活用することで、生産能力と運用柔軟性を更に向上させます。これにより、変化するグローバルサプライチェーンの動向に対応し、一貫性と信頼性の高い製造ソリューションを提供していきます。 ロッテバイオロジクスは、承認された拡張的な生産能力と大規模な製造体制を強みに、臨床開発から商業化対応まで、統合された一気通貫のサービスを通じて、製品の全ライフサイクルにおけるクライアントの支援に尽力してまいります。